

## 校務支援システムの導入による教員の負担を軽減するために

会津若松市立第一中学校

教諭 栗原 康

### 1 はじめに

会津若松市では、令和7年度からEDUCOM製の校務支援システム(C4th)が導入された。これまでは、学校独自のエクセルを用いた校務支援システムを活用していたが、EDUCOM製の校務支援システム(C4th)が採用されることになり、通知票を始め、指導要録、出席簿など、システムを使用して作成また管理することになった。導入により、これまでの仕組みと異なることが多く、システムに慣れるまでは、先生方の負担が大きくなることが予想された。通知票や指導要録の作成、年度更新作業などについて、これまで数回の研修会が開催されたが、それらを先生方に周知することと、スムーズな導入を図り、先生方の負担を少なくすることが課題であると感じた。

### 2 実践内容

#### (1) 通知票の作成について

これまでのエクセルによる校務支援システムは、エクセルファイルに必要事項を入力すると、通知票にスムーズに反映されていた。また、エクセルであるので、細かな修正が簡単であった。

しかし、導入された校務支援システムは、入力項目により入力するページを開き直さなければならず、それらをシステム上で直接入力するか、ダウンロードした複数のエクセルファイルそれぞれに必要項目を入力していく必要があった。

デメリットとして、以下のようなことが予想された。

- ① 入力内容が統一されず、検閲後に手直しが増える。
- ② 必要項目のもれがあり、完成された通知票を印刷して未入力の項目があることに気づく。

一度入力したものを修正することが増えること、どこに何を入力していないか考えながら仕事することはストレスになるため、下の図のように、入力する必要がある項目をまとめたエクセルファイルを用意した。

#### C4thでの通知票作成について(評定の入力)

① トップページの左上の  
三本線を選択



② 成績のタブから、  
「通知票入力」を選択



C4th を利用するために作成したマニュアル

入力する内容が決まっていること、学級での役職など、表記が統一されるべき項目についてはドロップダウンリストにより入力することができるようにした。

できたものを、校務支援システムからエクスポートしたエクセルファイルに貼り付けて、再度校務支援システムにインポートすることで通知票が作成できるようにした。

	A	B	H	I	J	K
1	3年			入力項目		
2	氏名	生徒会活動(特別)	部活動(常設)	部活動(特設)	賞状記録	学校行事
3		記録	記録	記録		記録
4	3101			サッカー部副部長		
5	3102			バスケットボール部副		
6	3103					
7	3104			サッカー部部長		
8	3105			バドミントン部部長		
9	3106			卓球部		
10	3107			パソコン・図書部		
11	3108			卓球部副部長		
12	3109			柔道部		
13	3110			剣道部副部長		
14	3111			柔道部		
15	3112			ソフトテニス部		
16	3113			バレーボール部副部長		
17	3114			ソフトテニス部		

C4thに入力内容を作成するためのエクセル画面

## (2) 指導要録の作成について

指導要録についても、これまでは独自のエクセルファイルを必要に応じ手直しして作成していた。通知票作成の際に入力した内容が反映されていたので、入力する内容が限られていた。

導入された校務支援システムでは、特に指導要録様式2を作成する際、通知票作成で入力した内容が反映される部分があり、作成にかかる負担が軽減される部分もある。しかし、所見の項目については、必要項目が①学習に関する所見、②特別活動に関する所見、③行動に関する所見、④進路指導に関する事項、⑤指導上参考となる諸事項、⑥表彰等、⑦特技等と分かれているものすべてを、項目立てをしながら一箇所に入力しなければならないため、入力には工夫が必要であった。

そこで、通知票に入力した内容を反映させながら、新たに入力したものと1つのデータにまとめるためのマクロを組んだファイルを準備した。マクロはGeminiを活用しコードを入力した。

それぞれの項目を選択、入力したデータを結合し、データを一括して校務支援システムにインポートすることができるようにすることで、入力の手間を省けるようにした。

## 3 終わりに

教員の「働き方」について取り上げられることが近年多くなっている。これまで行っていた行事を削減したり、教育活動を減らしたりすることで教員の負担を軽減することはできる。しかし、行事や教育活動の制限は、これまでの生徒が行事等とおして経験してきた楽しみや、感動を生徒が経験できなくなることにつながる。

校務支援システムの導入は、主に次の2点を目的としている。

- ① 教員の行う事務的な業務をデジタル化し、効率的に行い、働き方改革を推進する。
- ② 業務を効率化し、生み出された時間で、児童生徒と向き合う時間を増やす。

しかし、これらのシステムの導入が、教員の不安やストレスを増やすものになってしまっは本末転倒である。それらのシステムの導入をスムーズにし、活用しやすくすることも「働き方改革」につながると考え、取り組んできた。